大通公園を望む窓辺から

南の島に雪が降る

副会長　小熊　　豊

昨年の年末から年始に、南イタリア、シチリアへの旅に出た。地中海の青い陽光の下で、暖かい年末年始を迎えるはずであった。新千歳空港まで着ていた長袖、薄手のコート以外には、すべて半袖、Ｔシャツ等の夏服がカバンには入っていた。例によって私は旅行中何処を訪ねるかも知らず、何を見学するかも知らなかったが、南イタリア、シチリアだから暖かいことだけは確かだと信じていた。家内とも、年を取ると暖かいのがいいと話していた。

しかし寒かった!!最初は「寒波だな、そのうちいつものように暖かくなるだろう」位に、楽観していた。ところが一向に暖気は戻らず、シチリアでは数十年ぶりの大雪にまで見舞われた。10cm近くの降雪となり、交通はストップ、地元の人は大喜びではしゃぎまわっていた。パレルモから山越えして、ギリシャ神殿の立つアグリジェント遺跡を訪ねるという、夢のような歴史探訪の行程も中止となり、我々は雪かきに興ずる市民を横目で見ながら、市場見学。暖房服を買おうにも品数薄、色とか柄とか考える暇もなくセーター類を買い込んだ。市場で買った生ハムは美味しく、ワインもそれなりにいけたが、寒かった。北海道の暖かい部屋が恋しかった…。

このように散々な目にあった旅であったが、１つだけ良いことがあった。アリタリア航空の機内で出された赤ワインが実に美味しかった。ワインに詳しい方なら○○地方の○○ワインと銘柄を覚え、その後のコレクションに入れるのであろうが、そのような優雅な趣味のない私でも、赤ワインがこんなに美味しいのかと驚かされる味であった。旅行中あちこちでこのワインを探したが、北イタリア産らしく見つからなかった。それ以来赤ワインを飲むようになり、楽しみが広がった。

それにしても異常気象、天変地異、大変な災害が起きそうな予感。政治ともども、「どうなっているんだ」と叫び出したい不安に駆られるのは、一人私だけだろうか。

「カムイミンタラ(神々が遊ぶ庭)」大雪を訪ねて

理事　倉増　秀昭

今年北海道内で開催されているガーデンショーは、非常に洗練された形態を成していると思う。帯広、富良野、旭川、そして大雪。その中でも、大雪で開催された「大雪、森のガーデンショー」は大雪山を背景に、文字通り森をテーマにガーデナーやデザイナー達が才能を開花させていた。

その空間には、さまざまな宿根の花々が美しく咲き乱れ、そして、白樺などの木々の枝を、優しい風が吹き抜けて行く。真柄、森の中のコンサート会場で、美しい絵画を鑑賞している様な感覚に捉われた。何とも心地良いのだ。

私は、家族とともに、その地に併設されているオーベルジュに宿泊したのだが、宿泊したコテージは、森の中の建物に相応しい佇まいで、内装の家具も、木をテーマに制作されている旭川家具がセンス良く配置されていた。

ベランダで寛いでいると、さまざまな野鳥が美しい声のさえずりを奏で、可愛らしいリス達が、無邪気に木々を駆け回っているのだ。

ディナーは、増毛出身のフレンチの巨匠であるミクニのプロデュースのレストラン。北海道の食材を使用し、シェフの心からのもてなしが詰まった、体に優しいメニューである。大満足で食事を終えた私達に、もう一つの素晴らしいおもてなしが待っていてくれた。レストランから外に出ると、そこには満天の星空が私達を迎えてくれたのだ。

素晴らしい光景である。

この地は、北海道の素晴らしさを最大限に表現しうる場所であると思う。

凛と佇む大雪山、さまざまな動物達がその命を育む美しい森、そして満天の星空。多忙な日々を送っている私にとって、最高の至福の時間であった。

コテージを後にし、車を走らせて行くとキタキツネの親子に遭遇した。その姿もまたとても美しく、穏やかな表情が印象的だった。

アイヌの人々が、「カムイミンタラ（神々が遊ぶ庭）」と称した事の意味が理解できる旅となった。